

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年1月30日発行 No.30

『愛には偽りがあるではありません。悪を憎み、善から離れず、兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。』

(新約聖書 ローマの信徒への手紙 第12章9~11節)

<パイプオルガン「ルナ」の奉獻10周年を記念するコンサートでチャペルは超満員御礼!!>

KIUチャペルの大きな魅力であるパイプオルガン「ルナ」。その奉獻10周年を記念し、立教大学教会音楽ディレクターのスコット・ショウ教授をお招きして特別コンサートとワークショップが開かれました!! 前日には、プロの調律師に来てもらいオルガンの中にある1800本以上のパイプを全てチェック!! そうして万全の用意が整った後、東京は立教大学からショウ先生をお招きしましたがチャペルはもう満員!! 「本当に楽しく、また中身の濃いプログラムで5時間があっという間でした!!」と石原さんが驚くほどでした。このような企画は2017年度もどんどん用意しています。皆様もぜひ覚えてご参加ください!!



プロの調律師スティーブさん



1800本以上のパイプ全てを調節



流暢な日本語で話される講演に、出席者も思わず引き込まれる…



様々な賛美に大きな可能性を見た!!

<2017年は礼拝出席者が更に増加!! 学生・教職員で埋まるチャペルが涙で見えない…>

先週27日の金曜日で2017年度の礼拝が終了しました。最後は前田理事長の奨励で締めさせていただきましたが、40名を超える出席者が与えられ、日報も増刷!! …というか、ここ数日は毎日のように日報が足りない「嬉しい誤算」状態が続いていました。1月の平均出席者を算出すると

礼拝回数12回に対して、総出席者数451名、平均出席者37.5名

という数字が出ました!! これも一重に、ご協力下さった皆様のお陰であり、本当に深く感謝しております。2017年度も、この数字を更に上回れるようセンター一同力を合わせていきます!!

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

1月23日(月) 山口 宰(経済学部)

テーマ:「神戸のタイガーマスク」

2010年12月25日、「伊達直人」を名乗る正体不明の人物から、群馬県の児童相談所へランドセル10個が贈られた。このニュースが報道されると、今度は全国の児童養護施設に同じく「伊達直人」から様々な寄付や贈り物が届けられた。この「伊達直人」とは、漫画「タイガーマスク」の主人公で、孤児院に育ちプロレスで稼いだファイトマネーを福祉施設に寄付していた所から来ており、この運動はいつしか「タイガーマスク運動」と呼ばれるようになった。実は神戸にもこの「タイガーマスク運動」が展開されている。三宮・ひと街創り協議会会長 久利さんは、2007年の神戸空港開港一周年記念に、福祉施設で生活する子供達を招待し遊覧飛行を行った。その働きに多くの企業が協力した事、また子供達の喜びが大きかった事から、2009年には福祉施設で暮らす6年生全員を沖縄旅行に連れていく「KOBE 夢・未来号・沖縄」がスタートした。今年もその企画が実施され、私も同行する機会が与えられたが、本当に有意義で子供達の笑顔の詰まった素晴らしい2日間であった。いつの世も、子供達の笑顔は未来への希望を紡いでくれる。全ての子供達が将来に明るいビジョンを持てるような社会に向けて、協力して行きたい。

1月24日(火) 野間 光顕(チャプレン)

テーマ:「私たちの境界線」

私たちの周りには、様々な「境界線」が存在する。駅のホームの黄色い線、トイレの男・女の表示、店の入り口に敷かれたマット等々…。物ばかりでなく、大学の中でもチャイムが授業時間の境目を表しているし、年度末のテストも一種の「境界線」と言える。ただ、近年この「境界線」が曖昧になってきていないだろうか。夜でも営業しているスーパーやコンビニに加え、社会の基本的概念であった男・女の性も様々な対応が求められるようになってきている。世界の経済や情報も「グローバル」という言葉で繋がり、そこには国境や時間などの境界線がどんどん無くなってきている。しかし、これらは本当の意味で私達を豊かに、そして幸せにするのか? フェイクニュースなるものが流布される時代、嘘と真実の境界線も虚ろになってきている時代の中で、何が本当かをしっかり見極める力が求められる。創世記には、神は「分ける」事から世界の創造を始める。私は、この昼の礼拝が、出席者の中に大切な「境界線」を育てているように思う。時間は短い、毎日行われている礼拝を土台としつつキリスト教精神を醸成している。この混沌とした悩み多き時代に流される事なく、しっかりと歩めるよう共に祈りつつ歩みを進めていきたい。

1月27日(金) 前田 次郎(理事長)

テーマ:「このように生きなさい」

1月17日は阪神・淡路大震災22周年の日だった。このチャペルでも50名近い学生・教職員が集い祈りと演奏を奉げた。私はKIUの学生を連れて英国・イタリアを旅し、地震発生の10日前に英国から帰国した。ヴァチカンで教皇ヨハネ・パウロ2世に謁見した際、「日本に帰ったら愛の文化を大切にしたい」との言葉を受けた。この言葉は、今でも私の心の中に鮮烈に残っており、あの大地震と現在の私たちの心の中に起こる大地震とを繋げているように感じる。

自然災害としての地震も、現在の我々を襲っている心の中の大地震でも、必要な事は「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」という聖書の言葉ではないだろうか? 上記2つの大地震は、「経済的な成功や技術の進歩だけで人間の心を満たせない」事を表しており、同時に人生には成功や利益を超えたものがある事、家庭や社会の中で「愛」がどれほど大事であることを示している。我々は、異質な他者への嫌悪や貧者への虐げが作り上げる壁を乗り越えていく力を勝ち取っていかねばならない。その力を示されたのが主イエスだ。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」生き方を実践する時、私達は聖なる者、眩しい人間になれる。(文責:野間 光顕)